

## フィリピン慰霊友好親善

### 訪問団に参加して

四万十町 坂本 功

このたび、(公財)高知県遺族会のお世話になり、フィリピン慰霊友好親善訪問団(第2次)に参加させていただきました。

全国から遺児85名、付添6名、そして日本遺族会、看護師、添乗員総勢113名で3月14日フィリピンの地に第一歩を踏み出し、AからFの6班に分かれて、それぞれの父の戦没地に一番近い場所により班分けとなり、私はB班でフィリピンの首都、マニラ当方山岳地を主に慰霊する班となり、12名が九州の遺児の方々と共に慰霊の旅を行いました。

14日には、フィリピン到着後すぐにマニラ市内のタギック地区のある

フィリピン無名戦士の墓にお花を手向けて敬意を示し、ホテルに入り、明日からの個人慰霊のため早めに就寝し、15日からは、毎日6時に起床し朝食の後、7時30分にホテルを出発して、1日に1、2か所での個人慰霊祭を行いました。

一日のバスの走行距離は毎日300キロメートル以上になり、昼食はいつもバスの中でお弁当で、事務局の好意により父の戦没地のできる限り近い場所まで行き個人慰霊祭を行います。私の場合、父はルソン島の東海岸のケソン州ウミライという海岸で亡くなっており、到底そこまで行くことができませんので、サンミゲルという町はずれで慰霊祭を行っていただきました。

サンミゲルは、中央ルソン平野の真ん中であり、ウミライはるかかなたの山並みの向こうで50キロメートル以上離れています。参加者全員が祭

壇の準備をしてくださり、フィリピン・日本両国の国旗を掲げ、祭壇には家から持参した水、米、もち、菓子、お酒等々お供えし、家族の写真も祭壇に飾り、岩手県の斎藤さんと一緒に個人慰霊祭を行いました。

16日は、マニラ南東部のアンチボロ・ボソボソで2か所、17日はマニラを離れルソン島の最南部のルセナという町の海岸で個人慰霊祭を行い、リパの工業団地の中にあるリマパークホテル泊、18日はタール湖の西端のバイタガンで個人慰霊祭の後、近くの児童数514名のバンガ小学校を親善訪問し、参加者が持ち寄った学用品、衣類や日本遺族会が用意した大縄跳び、サッカーボールなどを贈呈し、児童の皆さんと楽しいひと時を過ごし、記念としてマンゴーの植樹を行いました。

その後、同じ町の病院を訪れて車いす等を贈呈し、マニラに帰り個人慰霊祭は終わりました。

18 日の夜は、訪問団全員がマニラのホテルで泊まり、19日は日本政府が建立したカリラヤ霊園墓地に向かい、日本大使館も参列されフィリピン及びその海域で戦没された51万8千余名のご英霊に全員が白菊を手向けて追悼式を厳粛かつ盛大に執り行い、ご英霊の方々の安らかなお眠りをお祈りいたしました。

19日は、スペイン統治時代のサンチャゴ要塞、フィリピン最古のマニラ大聖堂を見学し、昼食時に解団式を行い、マニラを飛び立ち成田空港に午後8時ごろ全員無事に着き、私たち遠い参加者は東京駅近くのホテルに10時過ぎにチェックインし最後の夜を過ごし、21日に高知に帰りました。

このフィリピン慰霊友好親善訪問団には遺児も年齢を重ねたこともあり、前半に看護師さんが付き添い、朝は血圧測定など全員に声をかけていただ

き、安心して慰霊の旅をすることができました。

高知県遺族会、高知県知事、高知県フィリピン遺族会から供花料をいただき、丁重にお花を手向けさせていただきました。ありがとうございました。

日本遺族会より遺児の方々には、この各地の慰霊友好深淵訪問団に参加されるよう周知の願いがあり、遺児の方々にはぜひ参加してください。

※令和元年7月 高知県遺族会報掲載